

昨年10月、2015年に実施された国勢調査の人口や世帯数の結果（確定値）が公表されました。

人口減少問題がクローズアップされていますが、一人世帯の増加も注目すべきポイントです。

今回の調査結果では、山口県でも初めて一人世帯が最も多くなり、3世帯に1世帯が一人暮らしとなりました。

人口減少問題は、社会・経済的側面から語られることが多いのですが、一人暮らしの増加は、個々人の生活や生きがいに関わる問題でもあります。

ここで、一人暮らしの増加の状況を見るため、一人世帯の割合を、男女別・年齢層別に、20年前の国勢調査の結果と比較してグラフにしてみました。

20年前に比べると、男性は、ほぼすべての年齢層で一人世帯の割合が上昇しています。特に中高年層の増加が目立ちます。これは、晩婚化の進展、未婚率の上昇が大きく影響しているものと思われます。

女性は20代の伸びが大きく、女性の社会進出が進んだことや進学率の上昇などが関係していそうです。

また、高齢化社会を象徴するように、80歳以上の一人暮らしの割合が急増しています。

この20年で私たちの価値観やライフスタイルは大きく変化しました。これから20年後、グラフはどんなふうになっているでしょう？

人口減少対策も急がれますが、一人暮らしでも安心して過ごせる社会をつくることも大切ではないでしょうか？

山口県の年齢層別一人世帯の割合

